

保育の標的に關する谷本博士の意見

拜啓、先月貴會より御尋ねに相成候當園の訓育の標的に關しては、前便端書を以て、倉橋先生まで御斷り申上候通り、別に標的といふ様なもの無之、常識によりて、長習慣を養成する換言すれば幼児自身が心もちよき生活をして居る様にと心懸け候に外ならず候、されど折角の御尋ねに刺戟せられ、恩師谷本富先生に、該問題を御覽に入れ、教を乞ひ候處御親切に左の如き御教示を給はり候間、若しも同志の方々の御参考に相成候やと要領を記し入御覽候、もとより先生の御校正を経たるものに無之候間、間違候やも難計其邊御寛恕被下度候。

フレーベル會御中

神戸幼稚園 望月ケニ

谷本先生のお話

一、幼稚園の性質立場に三つの見方がある。

- 1 小學校の魁けをする教育場である。
- 2 家庭の代りをするところである。
- 3 幼稚園は小學校と家庭との聯絡の機關である。

以上の如き見方は幼稚園の實際的説明であつて

理論的説明ではない。其理論的説明は幼稚園に來る幸福を持つた幼児に對して其幼児を適當に導く處である。即ち幼稚園は幼稚園として獨立したものである。人間はいつも生活して居る。胎教は胎兒の生活に向つての利導である。幼稚園の教育は幼兒の生活に適當なる利導である。小學校は學齡兒童の生活に適當なる利導を與へるのである。教育は他人の爲めにするのではなく、教育さるゝ人の爲めである。(國の爲めとか家の爲めとか云ふべきものではない)即ち被教育者の生活上のはたらしきを適當に利導するのが教育なのである。

幼年時代は大人の準備時代ではない。幼兒は幼兒でよいから幼稚園時代を邪魔をせずに、無事にすましたら夫でよい。つまり教育は其被教育者の年齢に相當して高き低きを問はず、其生活を適當に利導すればよい。

標 的

標的はメヤスなり。學校教育の標的は勅語である。又學校には校訓或は誓詞のある處もある。併し夫はよい事のやうでも實はあつても無くてもよい、先生はとにかく、子供はモット其外にしてほしい事があるかも知れぬ。例へば食物でも蛋白質とか含水炭素とかといふやうに種類をきめる必要はなく、生活に必要な好きなものを食べて居ればよいのと同じことである。故に校訓とか標的とかをきめるのは考へものである。此様に規範規範のあるのは古き主義にして他律的の教育である。新らしき教育は自律的であらねばならぬ。生活を利導する教育は被教育者の内部からはたらいて來ねばならぬ。外からするのは文樂の人形か昔の殿様である。今でも上流の人々には其様なことがある。長官が下僚の作つた祝文を我物顔に讀むなどは其例である。それはそれとして、子供の生活は内より起るものであるから、外より規矩を加へるのはよ

くない事である。政治ならば君主制の意味がある。此制度の行はれる間は、規範が要る。民主制には規範がいらぬ。天下の大勢は民本主義である。子供もさういふ時代に適する様に育てねばならぬ。即ち兒童本位でなければならぬ。十九世紀の始めにヘーゲルといふ哲學者があつて、一般的教育を重んじた。明治時代以前の教育は個人教育であつたのに、ヘーゲルが崇つて、座つたものが腰かけて、中學大學の科目までが多すぎる。然るに十九世紀の終りから二十世紀に及んで、此考へが加はつて來た。即ち生きることが先きである、生活が必要である。生活となると一様ではいかぬ、だれでも飯は三杯ときめることは出來ぬ、寝る時間も八時間がよいと云つても、だれでも八時間づゝ寝るといふ譯にはいかぬ、生活程別々のものはない人々めい／＼によい様にするがよい。昨今は此兩主義の争である。獨逸の國家はヘーゲルである。ロシアの方には規範がない。併しながら教育は餘

り極端ではいかぬ。故樋口勘次郎氏などはあまりに活動主義を極端にしすぎた爲めに成效しなかつた。人間の共同生活には一定の規律がある。他律的の標的の必要はないが自律的の標的がある。ツマリ兒童本位であつて、自律的にすればよい。これが即ち個人教育である。これまで教育を體、徳、智に分けたが、これは分けらるべき性質のものでない、又教育を別けて教授と訓育とするのも理屈が立たぬ。

教育の方法は二つである。

一、生活による教育法。

二、傳習による教育法。

生活による教育は日々の生活其ものが即境遇が自然に教育する。傳習による教育はある特殊の目的を立て、ある特殊の事柄を、特殊の方法で教へて練習するのである。幼稚園の教育は生活による教育法である。即ち幼兒の生活を正しく立派にするのである。幼稚園は自然に傳習してもよい、

例へば箸をもつには左でも右でもよいが、習慣で極つたことは、其の様にせねばならぬ。つまり年齢に適應したことを傳授するがよい。教育には常に生活と傳習とがあるが、幼稚園では生活を主とするがよい、唱歌を歌ふのは子供の生活であるが矢張傳習がある。生活によるといふは、大學で本を讀むより、ベースボールをやつて居る方が、其學生には生活である。獨逸の學校では、入學の始め一個月間は、起居動作を教へる。人間は本を讀むより立つたり座つたりする方が必要である。クレクも生活による方がよい。

教授法。

第一法 培養法。

根本を培養するとは元氣を培養すること、體育よりも意味が廣い。これは幼稚園では特に心身の根本を培養するといふがよい。

凡ての事は運動より起る。靜止して居るにも意志を用ふる必要がある。矢張運動である。即ち腦

髓に運動がある。自殺した押川氏の如きは脳髓の抵抗力が弱かつたからである。脳神経の細胞を強くするためには緻密に運動させることである。幼稚園では遊戯が其意味に於て必要である。

第三法 奮發法。

これは仕事に興味をもたせることである。

- 1 出来上つた仕事に興味をもたす。
- 2 競争に勝利あらしめる。
- 3 出来不出來に相應する賞罰を加へて興味を感せしむる。

第四法 模倣的。

善い真似をし悪い真似をせぬ。

真似を巧に利用して社會性を發達させる。

第五法 直觀法。

智恵づけるには直觀をさせる。

第六法 實施法。

百聞一見に若かずと云ふ諺があるが、一見よりは自分で行ふて見る方が更によい。

雜 錄

○玉成保姆養成所卒業式

玉成保姆養成所にては三月二十六日午後二時三十分より麴町區上二番町三十六番地なる同所長ソフアヤ・アラベラ・アルウケン嬢宅に於て第二回卒業式を舉行したり、同日は東京女子高等師範教授倉橋惣三氏の卒業生に與ふる訓辭ありたり、因に同所本年の卒業生は七名なりと。

○東京市保育研究会

東京市保育研究会にては去る三月九日(土曜日)午後一時半より麴町小學校に於て例會を開催し、山邊知之氏の「關西保育界視察談」及び土川五郎氏の「六色三體球つなぎに就て」なる講演あり、右終つて茶話會あり、參集者百餘名、盛會なりき。因に同會は今後東京市保育會と改稱すべく當日決議したり。